




**OpenManage Integration for VMware vCenter
vSphere Client バージョン 2.3 用クイックインストール
ガイド**



メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2014 Dell Inc. 無断転載を禁じます。 この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell[®]、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2015

Rev. A06


目次

1 インストールのクイックスタート	4
インストールについて.....	4
作業を開始する前に.....	4
製品ハードウェア要件.....	5
ソフトウェア要件.....	5
インストールと設定の概要.....	5
2 ウィザードを使用した OpenManage Integration for VMware vCenter の設定方法について	14
設定ウィザードようこそページ.....	14
新規接続プロファイルの作成ウィザード.....	14
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	15
プロキシサーバーの設定ウィザード.....	16
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	16
保証取得ジョブウィザードの実行.....	17
展開資格情報の設定ウィザード.....	17
デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード.....	18
OMSA リンクの有効化ウィザード.....	18
Dell iDRAC 自動検出および初期始動の設定.....	19
トラップを送信するための OMSA エージェントの設定.....	19
NFS 共有の設定.....	19
3 設定情報の詳細について	20

インストールのクイックスタート


インストールについて


本ガイドは、OpenManage Integration for VMware vCenter の Dell サーバーへのインストールを順を追って説明しています。インストールが完了した後は、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアアップデート、展開とプロビジョニング、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報について、『OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** PowerEdge サーバーの第 12 および 13 世代でのホストへのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。第 11 世代 PowerEdge サーバーへのインストールでは、展開プロセス中に OMSA エージェントが自動的にインストールされるようになりました。OMSA について詳細は、『OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド』の「第 11 世代ホスト向けの OMSA について」の項を参照してください。第 12 世代 PowerEdge サーバー、第 13 世代 PowerEdge サーバー、および第 12 世代より前のホストをより良く理解するには、本リリースのリリースノートを参照してください。

作業を開始する前に

次の情報は、OpenManage Integration for VMware vCenter のインストールを開始する前に必要な情報です。

- OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンスに割り当てる TCP/IP アドレス情報。
 - OpenManage Integration for VMware vCenter が vCenter Server にアクセスするためのユーザー名およびパスワード。これは、すべての必要な許可を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OpenManage Integration for VMware vCenter 役割についての詳細は、『User's Guide』（ユーザーズガイド）の「OpenManage Integration for VMware vCenter の設定」の章を参照してください。
 - ESX/ESXi ホストシステム、またはホスト上の管理者権限を持つ Active Directory の root パスワード。
 - iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名およびパスワード（iDRAC を含むホストシステム用のみ）。
 - vCenter サーバーおよび vSphere クライアントが現在実行中であることを確認してください。
 - OpenManage Integration for VMware vCenter OVF ファイルの場所を確認してください。
 - 仮想アプライアンスに登録される vCenter インスタンスによって管理されている、すべての ESX / ESXi ホスト上に OpenManage Integration for VMware vCenter（仮想アプライアンス）をインストールしてください。
 - VMware vSphere 環境は仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポートの各要件に合致する必要があります。さらに、vSphere Client システムに Adobe Flash player 10.0 またはそれ以降のバージョンをインストールします。
-  **メモ:** 通常の仮想マシンとしての仮想アプライアンスの機能。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えます。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter は、ESXi 5.5 以降に導入されたときに、VMware ツールを「実行中 (旧式)」として表示します。必要に応じて、アプライアンスの導入が正常に行われた後、またはいつでも VMware ツールをアップグレードできます。

製品ハードウェア要件

OpenManage Integration for VMware vCenter は、iDRAC Express または iDRAC Enterprise 搭載のサーバー向けには完全機能サポート、また、古い世代の Dell サーバー向けには限定的な機能サポートというように、Dell サーバー数世代に対する完全サポートを提供します。プラットフォーム要件の詳細は、OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノートに記載されています。お使いのホストサーバーに適合するかどうかを確認するには、リリースノートにある次の表を参照してください。

- 対応サーバーと最小 BIOS
- サポートされる iDRAC バージョン (導入および管理の両方)
- 古いサーバーに対する OMSA サポートと ESX/ESXi バージョンサポート (導入および管理の両方)


ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

デスクトップクライアント向けの要件

- vSphere Client システムに Adobe Flash Player 10.0 またはそれ以降をインストールします。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

具体的なソフトウェア要件については、『OpenManage Integration for VMware vCenter Release Notes』(OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノート) を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

- 443 (https) および 80 (http) - 管理コンソール用
- 4433 (https) - 自動検出およびハンドシェイク用
- 162 および 11620 - SNMP トラップリスナー用
- 2049、4001、4002、4003、4004 - NFS 共有用


インストールと設定の概要

次のハイレベルな手順は、OpenManage Integration for VMware vCenter の全体的なインストール方法の概要です。これらの手順では必須のハードウェアが所定の場所に設置されており、必要な VMware vCenter ソフトウェアが実行されていることを仮定しています。PowerEdge 第 12 世代以降のリファレンスサーバーでのインストールでは、このリリースに OMSA エージェントのインストールは必要ありません。PowerEdge 第 11 世代サーバーでのインストールでは、展開プロセス中に OMSA エージェントが自動的にインストールされるようになりました。OMSA の詳細に関しては、『Dell Management Plug-in ユーザーズガイド』を参照してください。次の情報は、インストール手順の概要を示しています。実際のインストールを開始するには、[vSphere を使用した Plug-In OVF の展開](#)を参照してください。

インストールの概要

1. OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールします。


- a. システムは接続済みであること、および vCenter サーバーおよび vSphere クライアントが実行中であることを確認してください。
- b. vSphere Client を使用して、OpenManage Integration for VMware vCenter を含む Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。
- c. ライセンスファイルをアップロードします。
- d. 管理コンソールを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter を vCenter Server に登録します。

 **メモ:** FQDN を使用した登録は必須ではありませんが、強く推奨されます。IP/FQDN ベースの登録の両方で、vCenter のホスト名が DNS サーバーによる適切な解決が可能である必要があります。

2. 設定ウィザードを完了します。
3. Dell イベントを有効化します。
 - a. 設定ページでイベントフィルタオプションをセットアップします。
4. ファームウェアアップデートを有効化します。
 - a. ファームウェアアップデートをダウンロードし、適用されるシステムで使用可能となるようにします。
5. Dell iDRAC のユーザー名およびパスワードを設定します。

vSphere クライアントを使用した Dell Management Plug-in OVF の導入

この手順は、デルのウェブサイトからジップファイルをダウンロードしていることを前提としています。

 **メモ:** シックプロビジョン Eager Zeroed はこのインストールに推奨されるディスクの形式です。

vSphere クライアントを使用して Dell Management Plug-in OVF を導入するには次の手順を実行します。

1. Dell Management Plug-in 仮想ディスクを含むファイルを解凍して、**setup.exe** を実行します。
2. Setup.exe ファイルをダブルクリックして EULA に同意し、ユーザーガイドを抽出して OVF を入手します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピー/移動します。
4. VMware vSphere クライアントを開始します。
5. VMware vSphere クライアントから、ファイル → OVF テンプレートの導入を選択します。

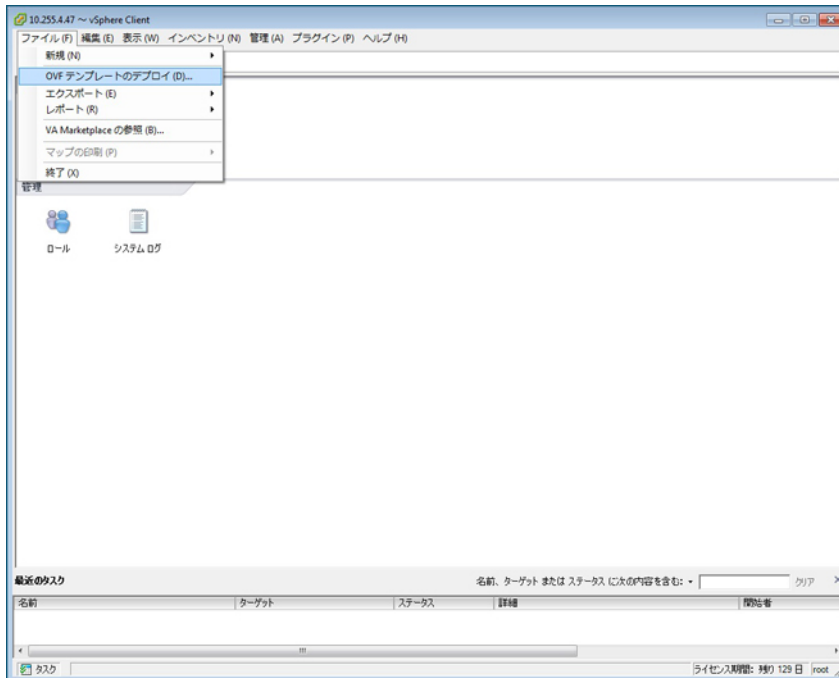



図 1. vSphere からの OVF テンプレートの導入

6. ソース ウィンドウで、**参照** ボタンを使用して OVF パッケージの場所を確認します。この場所はローカルドライブ、ネットワークドライブ、CD/DVD、またはインターネットからのいずれかです。Dell Management Plug-in ファイルのサイズは約 1.5 GB です。
 -  **メモ:** OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルでホストすることをお勧めします。
7. **次へ** をクリックします。
8. **OVF テンプレートの詳細** ウィンドウで、表示される情報を確認します。
9. **次へ** をクリックします。
10. **名前と場所** ウィンドウで次の手順を実行します。
 - a. **名前** テキストボックスで、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で 80 文字以下となるようにします。
 - b. **インベントリの場所** リストで、テンプレートを保存する場所を選択します。
11. **次へ** をクリックします。
12. vCenter の設定に応じて、次のオプションの 1 つが表示されます。
 - リソースプールが設定されている場合 — リソースプールのページで、Dell Management Plug-in の導入先となる仮想サーバーのプールを選択してください。
 - リソースプールが設定されていない場合 — ホスト/クラスタのページで、Dell Management Plug-in の導入先となるホストまたはクラスタを選択してください。
13. ホストで 1 つ以上のデータストアが使用可能な場合、データストアのページが表示されます。Dell Management Plug-in ファイルの保存先の場所を選択し、**次へ** をクリックします。
14. **ディスクの形式** ウィンドウで、仮想ディスクを保存する形式を選択します。
 - a. **シックプロビジョン Lazy Zeroed**
 Lazy-zeroed のシックディスクは作成された時に割り当てられたすべてのディスク容量がありますが、各ブロックは最初の書き込みでのみゼロが書き込まれます。その結果、作成は短時間で済みま

すが、最初に書き込まれるブロックのパフォーマンスは遅くなります。それに続く書き込みは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。

b. シックプロビジョン Eager Zeroed [推奨]

Eager-zeroed シックディスクでは、作成と同時にすべての容量が割り当てられてゼロが書き込まれます。そのため、ディスク作成の時間が増えますが、各ブロックに対する最初の書き込みでさえも最高のパフォーマンスが得られます。

c. シンプロビジョン [推奨されません]


シンプロビジョンの仮想ディスクに必要な容量は、作成の時ではなく最初の書き込みの時に割り当てられてゼロが書き込まれます。何も書かれていないファイルブロックに最初に書き込むときの I/O コストは大きく (Lazy-zeroed のシックディスクと同様) となりますが、その後のシンプロビジョンディスクでの書き込みでは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。

15. 次へをクリックします。

16. 完了準備 のウィンドウで、選択済みの OVF 導入タスクのオプションを確認し、終了 をクリックします。導入ジョブが実行し、ジョブの進捗状況を追跡できる場所に完了ステータスウィンドウが表示されます。

OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート

この手順は、download_software@dell.com から電子メールの添付としてライセンスを受け取っていることを前提としています。複数のライセンスをお持ちの場合は、ライセンスを続けて追加することができます。本手順ではライセンス XML ファイルが使用され、ハードコーディングされたファイル名はありません。

 **メモ:** アップロードに個々のライセンス XML を使用することはできないので、その代わりに圧縮ファイルに含まれたライセンス XML を使用します。一部のエディタでは、ファイルの転送時または編集時、ライセンス末尾に NULL 文字列が追加される場合があることから、XML パーサーによって認識されません。

1. vSphere Client から ホーム → ホストとクラスタ を選択し、左ペインで先ほど展開した OpenManage Integration の場所を特定して、仮想マシンの電源をオンにする をクリックします。
2. メインの VMware vCenter ウィンドウの コンソールタブをクリックして、管理コンソールを起動します。
3. OpenManage Integration for VMware vCenter が起動を終了するまで待ち、管理者のユーザー名 (デフォルトは Admin) を入力してパスワードを設定します。
4. OpenManage Integration for VMware vCenter のネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。

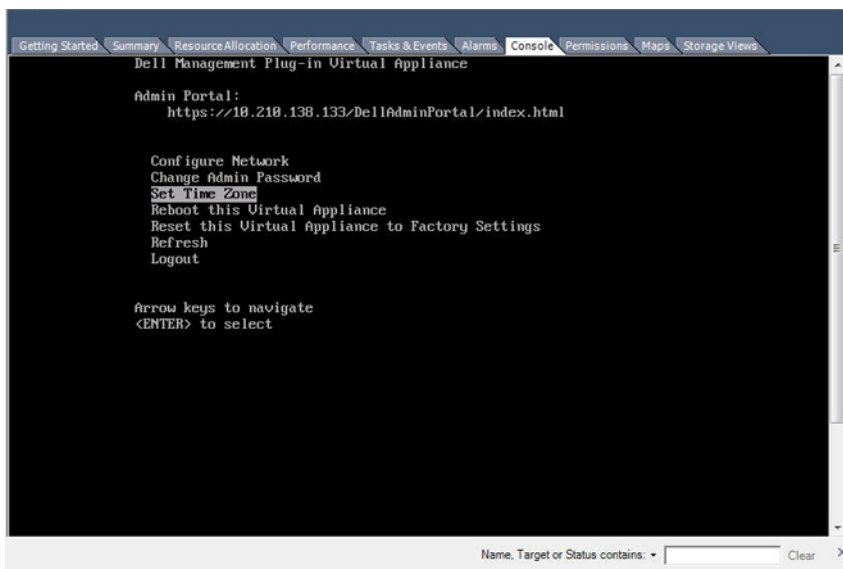


図 2. コンソールタブ

5. ウェブブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名をタイプします。
例えば、<https://10.210.126.120> or <https://myesxihost> となります。URL は大文字と小文字を区別します。

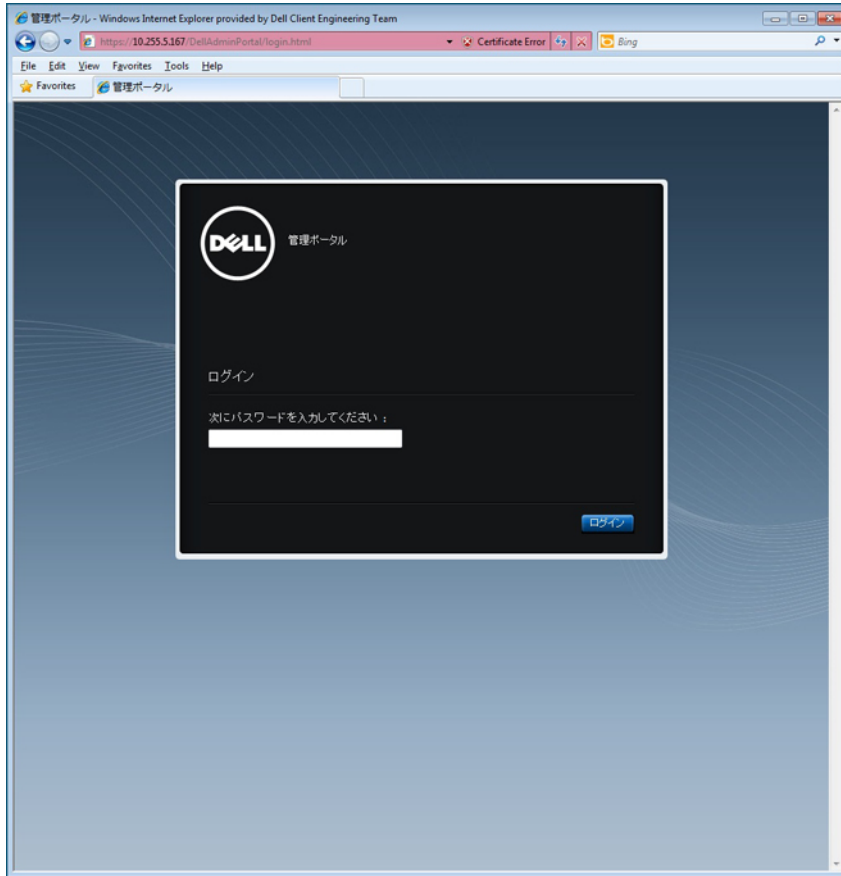


図 3. 管理コンソール

6. 管理コンソールのログインウィンドウでパスワードを入力し、ログインをクリックします。

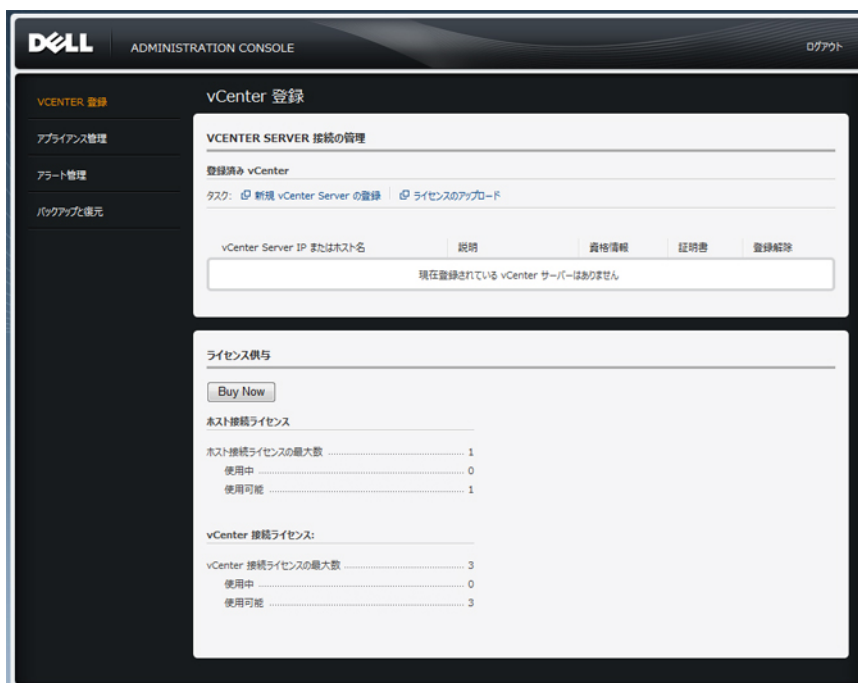


図 4. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

7. vCenter 登録 ウィンドウで、**新規 vCenter Server の登録** をクリックします。
8. **新規 vCenter の登録** ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - a. **vCenter の名前** で、**vCenter サーバー IP またはホスト名** テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、**説明** テキストボックスにオプションの詳細説明を入力します。
 - b. **管理者ユーザーアカウント** の **管理者ユーザー名** テキストボックスに、管理者ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式で入力してください。管理者ユーザーアカウントは OpenManage Integration for vCenter 管理によって使用されます。
 - c. **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。
 - d. **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
9. **登録** をクリックします。
10. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
 - OpenManage Integration for VMware vCenter の評価バージョンをお使いの場合は、手順 12 に進みます。
 - 完全製品バージョンをお使いの場合は、ライセンスファイルが E-メールで送付されるので、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、**ライセンスのアップロード** をクリックします。
11. **ライセンスのアップロード** ウィンドウで **参照** ボタンをクリックしてライセンスファイルの参照先を指定します。**アップロード** をクリックしてライセンスファイルをインポートします。

メモ:

- ライセンスファイルが何らかの形で変更または編集されている場合、ライセンスファイルは機能しないので、元のご注文番号、SKU 番号、およびアカウント番号とともに **download_software@dell.com** まで電子メールをご送付いただく必要があります。
- アップロードに個々のライセンス XML を使用することはできないので、その代わりに圧縮ファイルに含まれたライセンス XML を使用します。一部のエディタでは、ファイルの転送時または編集時、ライセンス末尾に NULL 文字列が追加される場合があることから、XML パーサーによって認識されません。

12. OpenManagement Integration for VMware vCenter が登録されたら、vCenter ホームページの **管理** カテゴリに OpenManagement Integration アイコンが表示されます。

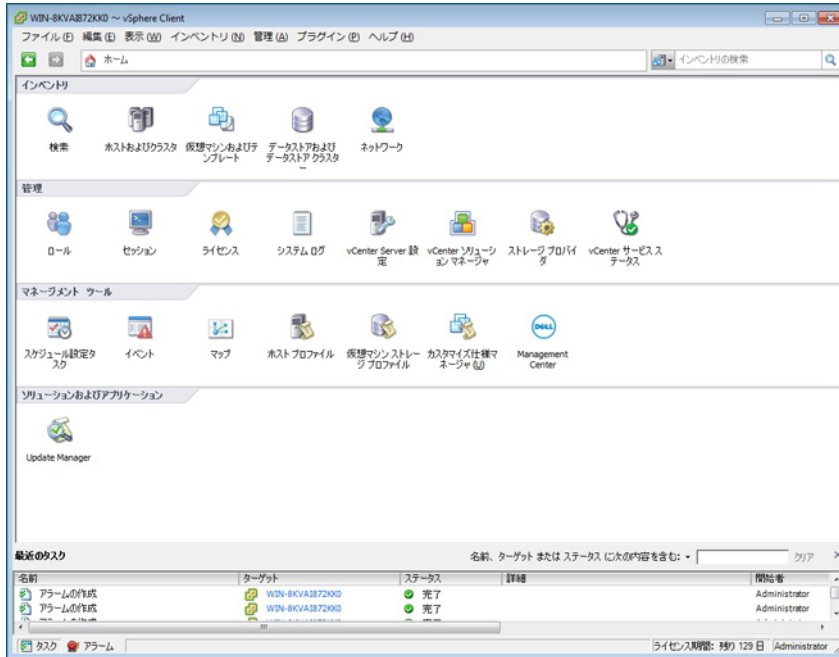


図 5. OpenManagement Integration for VMware vCenter が vCenter に正常に追加されました。

インストールの検証

次の手順は OpenManagement Integration for VMware vCenter のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere Client ウィンドウをすべて閉じ、新しい vSphere Client を開きます。
2. OpenManagement Integration アイコンが vSphere Client 内に表示されることを確認します。
3. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに ping コマンドの実行を試行して、vCenter が OpenManagement Integration for VMware vCenter と通信可能であることをチェックします。
4. vSphere Client で **プラグイン** → **管理対象プラグイン** をクリックします。 **プラグインマネージャ** ウィンドウで OpenManagement Integration for VMware vCenter がインストール済みで有効化されていることを検証します。

OpenManagement Ingetration Plug-In の 2.1 バージョンから現在のバージョンへのアップグレード


1. 次のいずれかの方法を使用して、仮想マシンの管理コンソールを開きます。
 - ブラウザのウィンドウを開き、設定する仮想マシンの管理コンソール URL を入力します。
管理コンソール URL は、 **vSphere vCenter コンソール** タブに表示されます。

- **Dell 管理コンソール** → **設定** ページのリンクを使用します。
URL は `https://<アプライアンス IP アドレス>` 形式を使用し、大文字小文字を区別します。
- 2. **管理コンソール** の左ペインで、**アプライアンス管理** をクリックします。
- 3. 仮想アプライアンスをアップグレードするには、次のいずれかを実行します。
 - デフォルトのアップデートリポジトリのパスで利用できる **RPM** を使用してアップグレードするには、**アプライアンスの設定** で、**仮想アプライアンスのアップデート** をクリックして、手順 7 に進みます。
 - ダウンロードした最新の **RPM** を使用してアップグレードするには、**アプライアンスの管理** ページで、**編集** をクリックし、**RPM** が含まれているパスを入力します。
- 4. **RPM フォルダ/ファイル** を別の **HTTP** の場所にダウンロードした場合は、リポジトリのパスを変更します。変更されたパスは、リポジトリの場所のデフォルトパスで指定したフォルダを指している必要があります。
- 5. この変更を保存するには、**適用** をクリックします。
- 6. 仮想アプライアンスにアップデートを適用するには、**アプライアンスの設定** で、**仮想アプライアンスのアップデート** をクリックします。
- 7. **アプライアンスのアップデート** ダイアログボックスで、**アップグレード** をクリックします。
アップグレード をクリックした後、管理コンソールからログオフされます。

1.6/1.7 から 2.3 に移行するための移行パス

バージョン 1.7、またはこれ以前のバージョンでは **RPM アップデート** はサポートされていません。旧バージョン (1.6 または 1.7) は、バックアップと復元パスを使用してバージョン 2.3 リリースに移行させることができます。また、移行パスはバージョン 1.6 と 1.7 のみでサポートされます。1.6 より前のバージョンをお持ちの場合は、**OpenManage Integration for VMware vCenter** バージョン 2.3 にアップグレードする前に、お使いの **アプライアンス** を対応バージョンにアップグレードする必要があります。

旧バージョンから **OpenManage Integration for VMware vCenter 2.3** バージョンに移行するには、次の手順を実行します。

1. 以前のリリースのデータベースのバックアップを行います。詳細に関しては、本ガイドの **Managing Backup and Restore** (バックアップと復元の管理) の項を参照してください。
2. **vCenter** から旧アプライアンスの電源を切ります。
 -  **メモ:** プラグインの登録は **vCenter** から解除しないでください。プラグインを **vCenter** から登録解除すると、プラグインによって **vCenter** に登録されたアラームのすべてが削除され、**vCenter** でアラームに対して行われたアクションなどのカスタマイズのすべてが削除されます。バックアップ後にすでにプラグインを登録解除した場合の詳細については、本ガイドの「**バックアップ後に旧プラグインを登録解除した場合のリカバリ方法**」の項を参照してください。
3. **OpenManage Integration** バージョン 2.3 **OVF** を展開します。OVF の展開の詳細に関しては、本ガイドの「**vSphere Client を使用した OpenManage Integration for VMware vCenter OVF の展開**」の項を参照してください。
4. **OpenManage Integration** バージョン 2.3 **アプライアンス** に電源を入れます。
5. **アプライアンス** でネットワーク、タイムゾーンなどをセットアップします。新しい **OpenManage Integration** バージョン 2.3 **アプライアンス** の IP アドレスは、旧アプライアンスのものと同じにすることをお勧めします。ネットワーク詳細をセットアップするには、本ガイドの「**OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート**」の項を参照してください。
6. データベースを新規アプライアンスに復元します。詳細に関しては、本ガイドの **バックアップからのデータベースの復元** の項を参照してください。
7. 新しいライセンスファイルをアップロードします。詳細に関しては、『**OpenManage Integration Version 2.3 Quick Install Guide**』 (**OpenManage Integration** バージョン 2.3 クイックインストールガイド) にある「**OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート**」の項を参照してください。
8. **アプライアンス** を検証します。データベース移行が正常に行われたことを確認するための詳細については、本ガイドの「**インストールの検証**」を参照してください。

9. 登録された vCenter すべてでインベントリを実行します。


 **メモ:**

アップグレード後は、プラグインによって管理されているホストのすべてで再度インベントリを実行することが推奨されます。オンデマンドでインベントリを実行するための手順に関する詳細は、「**インベントリジョブの実行**」を参照してください。

新しい **OpenManage Integration** バージョン **2.3** アプライアンスの IP アドレスが旧アプライアンスの IP アドレスから変更された場合、新しいアプライアンスをポイントするように **SNMP** トラップのトラップ送信先を設定する必要があります。第 **12** 世代サーバー以降では、これはホスト上でインベントリを実行することによって修正されます。旧仕様に準拠する第 **11** 世代以前のホストでは、この IP 変更が非準拠として表示され、**OMSA** の設定が必要になります。ホストの準拠性を修正するための詳細に関しては、『**OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーガイド**』で「**非準拠 vSphere ホストの修正ウィザードの実行**」を参照してください。

バックアップ後に旧 Plug-In を登録解除した場合のリカバリ方法

旧バージョンのデータベースのバックアップ取得後にプラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次の手順を実行してください。

 **メモ:** プラグインの登録解除により、プラグインによって登録済みアラームに行われたカスタマイズのすべてが削除されています。次の手順では、カスタマイズを復元することはできませんが、アラームをデフォルト状態で再登録します。

1. 本章の「**1.6/1.7 から 2.3 への移行のための移行パス**」の項の手順 **3~5** を実行します。
2. 旧プラグインで以前登録したものと同一 vCenter にプラグインを登録します。
3. 本章の「**1.6/1.7 から 2.3 への移行のための移行パス**」の項にある手順 **6~9** に進み、移行を完了させます。詳細に関しては、『**OpenManage Integration Version 2.3 Quick Install Guide**』（**OpenManage Integration** バージョン **2.3** クイックインストールガイド）にある「**1.6/1.7 から 2.2 への移行のための移行パス**」の項を参照してください。

ウィザードを使用した OpenManage Integration for VMware vCenter の設定方法について

OpenManage Integration for VMware vCenter の基本的なインストール後は、これを設定する必要があります。これは通常設定ウィザードを使用して行いますが、Dell Management Center 設定オプションの設定ページオプションを使用して行うこともできます。

両エリアのユーザーインターフェースは似ていますが、ウィザードでは保存して続行をクリックするのに対し、設定オプションでは適用をクリックします。

本項では、ウィザードを使用した設定方法について説明します。OpenManage Integration for VMware vCenter を設定するために Dell Management Center の設定オプションを使用することについての情報は、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

設定ウィザード使用の設定タスク

これらのタスクは、設定ウィザードを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter を設定するときを使用してください。

1. 設定ウィザードようこそページ
2. インベントリジョブのスケジュール
3. 保証取得ジョブの実行
4. 展開資格情報の設定
5. デフォルトファームウェアアップデートリポジトリの設定
6. OMSA リンクの有効化


設定ウィザードようこそページ

OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールした後、設定を行う必要があります。

1. vSphere Client の管理 で、Dell Management Center アイコンをクリックします。
2. 初めて Dell Management Center アイコンを実行する場合、設定ウィザードが開きます。このウィザードには、Dell Management Center → 設定 ページでアクセスすることもできます。
3. ようこそ タブで、これから実行する手順を確認し、次へ をクリックします。


新規接続プロファイルの作成ウィザード


接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するのに使用する資格情報を保存します。各 Dell サーバーは、Dell Management Plug-in によって管理される接続プロファイルに関連付けられている必要があります。複数のサーバーを1つの接続プロファイルに割り当てることができます。接続プロファイルの作成方法は、設定ウィザードと Dell Management Center、設定オプションではほぼ同様です。


-  **メモ:** Dell PowerEdge サーバーの第 12 世代以降を使用するのホストでのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。第 11 世代サーバーへのインストールでは、OMSA エージェントは展開プロセス中に自動的にインストールされるようになりました。


ウィザードを使用する新規接続プロファイルの作成には、以下を行います。

1. **接続プロファイル** タブで、**新規作成** をクリックします。
2. **プロファイル名と説明** パネルでカスタム接続プロファイルを管理しやすくするために使われる **プロファイル名** とオプションの **説明** を入力し、**次へ** をクリックします。
3. **関連ホスト** パネルで、接続プロファイルに関連するホストを選択し、**次へ** をクリックします。
4. 資格情報と接続プロトコルの情報を表示し、**次へ** をクリックします。
5. iDRAC パネルで、**iDRAC 資格情報** を入力します。
 - a. **ユーザー名**、**パスワード**、および **パスワードの確認** を入力します。ユーザー名は空白スペースを含む最大 16 文字を使用することができます。両方のパスワードは一致する必要があり、印刷可能な ASCII 文字のみを入力します。

 **メモ:** パスワードには最高 20 までの印刷可能な ASCII 文字を使用できます。ドメイン名には、英数字、- (ダッシュ)、または . (ピリオド) のみを使用できます。
 - b. **証明書のチェック** では、**有効** を選択し、すべての将来の接続に iDRAC 証明書をダウンロードして検証するか、または **無効** を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。**Active Directory** を使う場合は有効を選択する必要があります。
6. **次へ** をクリックします。
7. **ホストルートの資格情報** パネルでは、以下を行います。
 - a. **ユーザー名**、**パスワード**、および **パスワードの確認** を入力します。両パスワードは一致する必要があります。


 **メモ:** パスワードは、31 文字を超えることはできません。また、特殊文字を含めることはできません。

 **メモ:** iDRAC Express または Enterprise カードがないサーバーでは、iDRAC テスト接続が実行されると、このシステムには該当しませんというメッセージが表示されます。

 **メモ:** OMSA 資格情報は、ESX および ESXi ホストに使われたものと同じです。
 - b. **証明書のチェック** では、**有効** を選択し、すべての将来の接続に OMSA 証明書をダウンロードして検証するか、または **無効** を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。**Active Directory** を使用する場合は有効を選択します。
8. **次へ** をクリックします。
9. **接続性のテスト** ウィンドウで、選択されたサーバー用に入力された iDRAC およびホストルートの資格情報がテストされます。次のいずれかを行います。
 - テストを開始するには、**選択したテスト** をクリックします。その他のオプションはアクティブになっていません。
 - テストを中止するには、**すべてのテストを中止** をクリックします。
10. プロファイルを完了するには、**保存** をクリックします。
11. イベントとアラームの設定を続けるには、**保存して続行** をクリックします。


イベントおよびアラームの設定ウィザード


設定ウィザードを使用して、または Dell Management Center、イベントおよびアラームの設定オプションからイベントおよびアラームの設定を行います。

-  **メモ:** 12G より前のホストでは、vCenter でホストイベントを表示するには、仮想アプライアンスは OMSA でトラップ先に設定されている必要があります。


イベントおよびアラームを設定するには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのイベント掲載レベル**で、以下のいずれかを選択します。
 - すべてのイベントを掲載をしない - ハードウェアイベントはブロックされます。
 - すべてのイベントを掲載する - すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
 - 重要および警告イベントのみを掲載する - 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
 - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する - 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームとイベントを有効化するには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、重要イベントに対応して保守モードに入ります。
3. 表示されるダイアログボックスで **続行** をクリックしてこの変更を確定するか、または **キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ表示されます。
4. すべての管理されている Dell サーバーで、デフォルトの vCenter アラーム設定を復元するには、**デフォルトのアラームの復元** をクリックします。

変更が有効になるには、最大1分間かかることがあります。
5. ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

 **メモ:** アプライアンスの復元後、**イベントおよびアラーム** の設定は、グラフィックユーザーインターフェースで有効と表示されていても有効化されていません。**設定** ページから **イベントおよびアラーム** 設定を再度有効化する必要があります。

プロキシサーバーの設定ウィザード


プロキシサーバーは、設定ウィザードで、または後ほど Dell Management Center の **設定** → **プロキシ** ページを使用して設定します。

プロキシサーバーを設定するには、以下を行います。

1. **HTTP プロキシの設定ウィンドウ** で以下のいずれかを行います。
 - プロキシサーバーを使用しない場合は、**保存して続行** をクリックします。
 - プロキシサーバーを使用する場合は、**設定** で **プロキシサーバーのアドレス** を入力します。
2. **プロキシポート番号** を入力します。
3. 必要に応じて、**資格情報が必須です** チェックボックスを選択します。
4. **資格情報が必須です** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. **プロキシユーザー名** テキストボックスにプロキシユーザー名を入力します。
 - b. **プロキシパスワード** テキストボックスにプロキシパスワードを入力します。
 - c. **パスワードの確認** テキストボックスにプロキシパスワードを再入力します。
5. **プロキシでプロキシを使用する** チェックボックスを選択します。
6. これらのオプションを保存して継続するには **保存して続行** をクリックします。

インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリスケジュール設定は、設定ウィザードからの実行も、**Dell Management Center** → **設定** オプションからの実行も、ほぼ同じです。唯一の違いは、ウィザードではインベントリを直ちに実行する場合に選択するオプションが提供されることです。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter で今後もアップデートされた情報を確実に表示するようにするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小限のリソースのみを消費し、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
 - インベントリスケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - インベントリスケジュールを実行しない場合は、**Dell ホストではインベントリを実行しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. インベントリを実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
 - c. ウィザードの完了後、インベントリタスクを自動的に実行するには、**ウィザードの最後にインベントリを実行します (推奨)** チェックボックスを選択します。
このチェックボックスは、選択した曜日のチェックボックスが選択された場合にのみ表示されます。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。


保証取得ジョブウィザードの実行

保証取得ジョブの設定は、ウィザードから行う場合と、**Dell Management Center** → **設定** オプションから行う場合もほぼおなじです。また、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することができます。保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

1. **設定ウィザードの保証のスケジュール** ウィンドウで、以下のいずれかを行います。
 - 保証スケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - 保証スケジュールを実行しないようにするには、**保証情報を取得しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. 保証ジョブを実行したい各曜日の横にあるテキストボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。

展開資格情報の設定ウィザード

展開資格情報は、自動検出を使用して検出されたベアメタルシステムとセキュアに通信するために使用されます。これは、セキュアな通信のため、展開プロセスが終了するまで初回検出からの iDRAC を使用します。展開が完了したら、資格情報は、検出ウィザードからのベアメタルシステムに一致する接続プロフィール内のものに変更されます。展開資格情報に変更されると、変更後に新しく検出されたシステムはすべて新しい資格情報でプロビジョニングされますが、変更前に検出されたサーバーの資格情報は影響を受けません。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter は、プロビジョニングサーバーとして機能します。展開資格情報は、プラグインを自動検出プロセスでプロビジョニングサーバーとして使用する iDRAC で設定されます。


展開資格情報の設定には、以下を行います。

1. **展開資格情報** ウィンドウで、資格情報を表示または変更できます。ベアメタルサーバーは、これらの資格情報から接続プロファイルで指定されたものに切り替えます。
2. これらの資格情報を変更するには、**ベアメタルサーバー展開用の資格情報** 下で以下を行います。
 - a. **ユーザー名** テキストボックスでユーザー名を編集します。
 - b. **パスワード** テキストボックスでパスワードを編集します。
 - c. **パスワードの確認** テキストボックスでパスワードを確認します。
3. 特定した資格情報を保存して設定ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定 ウィザード


ファームウェアリポジトリ設定には、展開済みサーバーのアップデートに使用されたファームウェアカタログの場所が含まれています。ファームウェアリポジトリは、当初このウィザード内でセットアップすることも、後から **Dell Management Center** → **設定** オプションで設定することもできます。さらに、**OpenManage Integration** タブからファームウェアアップデートを後ほど実行することも可能です。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリを設定するには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのファームウェアリポジトリ** で、ファームウェアアップデートのためにデフォルトリポジトリを選択するには、以下のいずれか1つを選択します。
 - **Dell Online**
ステージングフォルダのある、デフォルトのファームウェアリポジトリ (<ftp.dell.com>) です。**OpenManage Integration for VMware vCenter** は選択されたファームウェアのアップデートをダウンロードし、それらをステージングフォルダに保存して、後に必要に応じて適用します。
 - **ローカル/共有リポジトリ**
これは **Dell Repository Manager** アプリケーションで作成されます。このローカルリポジトリは、Windows ベースのファイル共有で見つけることができます。
2. **ローカル/共有リポジトリ** を選択した場合、以下を行います。
 - a. 次のフォーマットを使って、**カタログファイルの場所** を入力します。
 - xml ファイル用の NFS 共有: `host:/share/filename.xml`
 - gz ファイル用の NFS 共有: `host:/share/filename.gz`
 - xml ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.xml`
 - gz ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.gz`
 - b. CIFS 共有を使用する場合、**ユーザー名**、**パスワード**、**パスワードの確認** を入力します。両パスワードは一致する必要があります。これらの欄は CIFS 共有を入力する場合にのみアクティブになります。
 **メモ:** 共有ネットワークフォルダのユーザー名/パスワードには、@ 文字は使用できません。
3. この選択を保存して **設定ウィザード** を継続するには、**保存して続行** をクリックします。

OMSA リンクの有効化ウィザード

OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンス内で **OpenManage Server Administrator (OMSA)** を起動するには、**OMSA Web Server** のインストールと設定が必要です。**Web Server** のインストールおよび設定の手順に関しては、『*OpenManage Server Administrator Installation Guide*』（OpenManage Server Administrator インストールガイド）を参照してください。

 **メモ:** OMSA は Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーより前の Dell サーバーにのみ必要です。

OMSA を使用して、以下を行うことができます。

- vCenter エレメント (詳細センサ / コンポーネントレベルの正常性情報) の管理。
 - コマンドログおよびシステムイベントログ (SEL) の消去。
 - NIC 統計情報の取得。
 - OpenManage Integration for VMware vCenter が、選択したホストからイベントをキャプチャしていることを確認します。
1. 設定ウィザードの **OpenManage Server Admin** ページで **OMSA Web Server URL** テキストボックスを使って OMSA URL を入力します。HTTPS およびポート番号を含む完全な URL を入力する必要があります。例えば、
`https://<OMSA_Server_IP_or_hostname>:1311` です。
 2. この URL を保存して設定ウィザードを終了するには、**終了** をクリックします。

Dell iDRAC 自動検出および初期始動の設定

自動検出が有効な状態でアプライアンスを工場から注文しなかった場合、手動で行います。

トラップを送信するための OMSA エージェントの設定

ESX ウェブサイトにある OMSA エージェントのインストールおよび設定には、OMSA エージェントが OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンスにトラップを送信するための詳細手順の他、サンプルのスクリプトが含まれています。これは次の URL にあります。

<http://en.community.dell.com/techcenter/systems-management/w/wiki/1760.openmanage-server-administrator-omsa.aspx>


NFS 共有の設定

OpenManage Integration for VMware vCenter で、バックアップと復元操作、ファームウェアアップデート用、およびステージングフォルダとして NFS 共有を使用するには、完了する必要がある特定の設定があります。CIFS 共有には追加設定を行う必要はありません。

NFS 共有の設定には、以下を行います。

1. NFS 共有をホストしている Linux または Unix OS マシンで、`/etc/exports` を編集して `/share/path <アプライアンス IP> (rw) *(ro)` を追加します。
これにより、仮想アプライアンスは完全に共有の読み書きができるようになりますが、他のユーザーは読み取り専用となります。
2. nfs サービスの開始：

```
service portmap start service nfs start service nfslock status
```

 **メモ:** 上記の手順は、使用している Linux ディストリビューションによって異なる場合があります。
3. すでにいずれかのサービスが実行されている場合は、以下を行います。

```
exportfs -ra
```

設定情報の詳細について

OpenManage Integration for VMware vCenter の設定、管理、および展開オプションに関する完全ガイドについては、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。